

環境活動における ユースの課題意識

2026.07.22(水)

一般社団法人NatureLit Japan

代表理事 矢動丸琴子

矢動丸琴子 (やどうまることこ)

- 1993年11月生まれ
- 一般社団法人NatureLit Japan 代表理事
- 日本環境教育学会国際交流委員 / アジアジャーナル2025・2026共同編集長
- 持続可能な開発のための教育推進会議 (ESD-J) 副代表理事
- IUCN-CEC(Commission on Education and Communication) メンバー
- IUCN Task Force on Nature-based Education メンバー

< これまでの経歴 >

- 一般社団法人 Change Our Next Decade(COND) 元代表理事 / 設立者
- 日本環境教育フォーラム 元臨時職員
- 国際自然保護連合日本委員会(IUCN-J) ユースプログラムディレクター
- 千葉大学大学院園芸学研究科博士後期課程単位取得退学 (専門: 環境健康学、人間植物関係学、環境教育学)
- 2018年から生物多様性条約やIUCNなどの国際会議に継続的に参加



∴ 経験に基づくユース活動における課題や苦勞

(自分でユース団体を設立して活動していた矢動丸の場合)

- 本気でやるなら楽しいことばかりではない
- 経験がないからできない、と言っている暇はない(やるしかない)
- 学業や、社会人の場合は本業との両立の壁
- 「若者」が完全に自立して活動をするのはハードルが高い



「ユースの活動」といっても

関わるレベル感などで必要な支援の内容が異なる

Ⅲ 調査の背景と目的

- 環境分野におけるユースの活動促進は重要
- ユース向けのプログラムも数多く存在する

→ 「実際にユースが求める支援」については、十分に可視化されておらず
適切な支援のためにはユース側のニーズを把握し、求められる枠組や
リソースの提供が必要ではないか？



環境活動を進める上での課題やニーズ、あったら嬉しい支援や
機会について把握することを目的にアンケート調査を実施

∴ 調査方法

- 調査期間：2026年1月28日(水)～2026年2月6日(金)
- 調査形式：Googleフォームを用いたアンケート調査
- 調査方法：関わりのあるユース団体等を中心に個別に配布
- 対象：35歳以下の方
- 設問：自分で環境活動をするのに必要だと思う項目
環境活動を行う上で特にハードルだと感じている項目
今後、環境活動をするにあたって欲しい支援

国際会議への参加や政策提言を
活動の中心においている
ユース団体や個人が中心

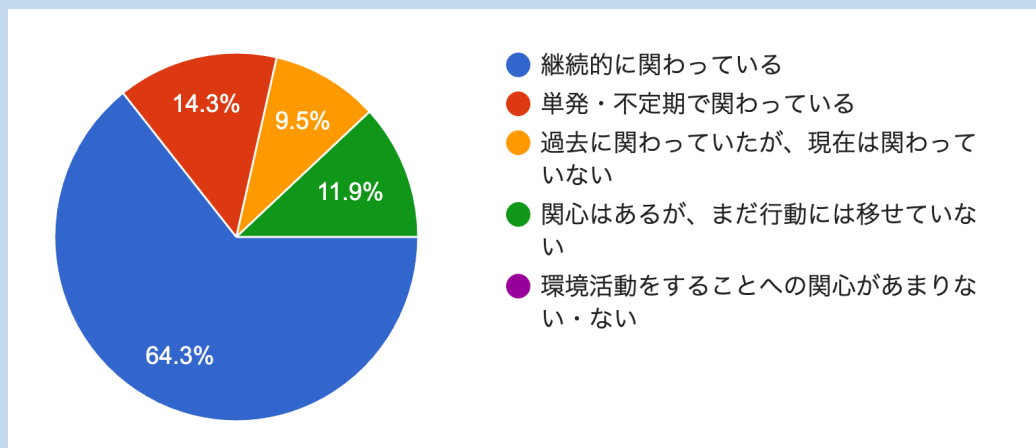
など

⋮ 回答者の属性

■ 性別：男性 38.1%, 女性 61.9%

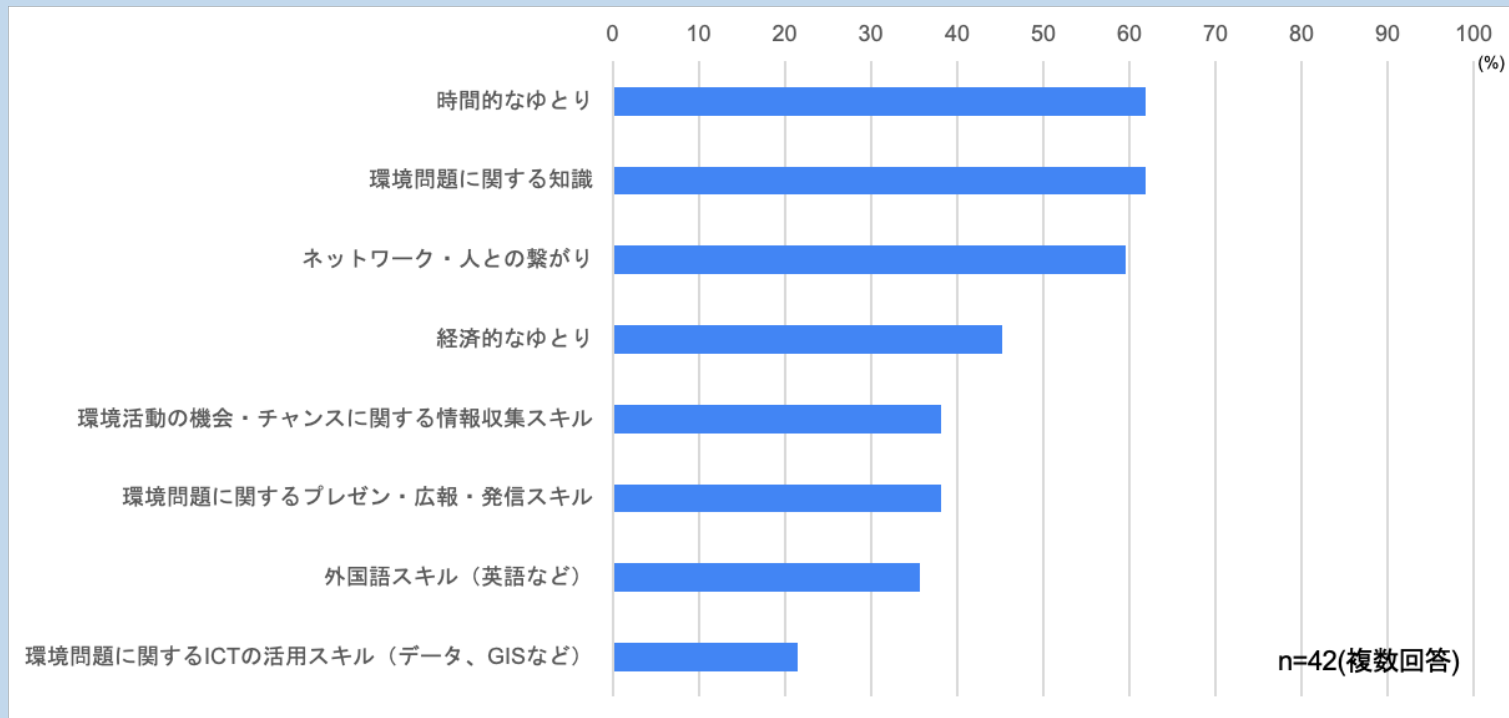
■ 現在の就学・就労先が環境系：環境系 57.1%, 環境系ではない42.9%

■ 環境活動への関わりの程度：下記のグラフの通り



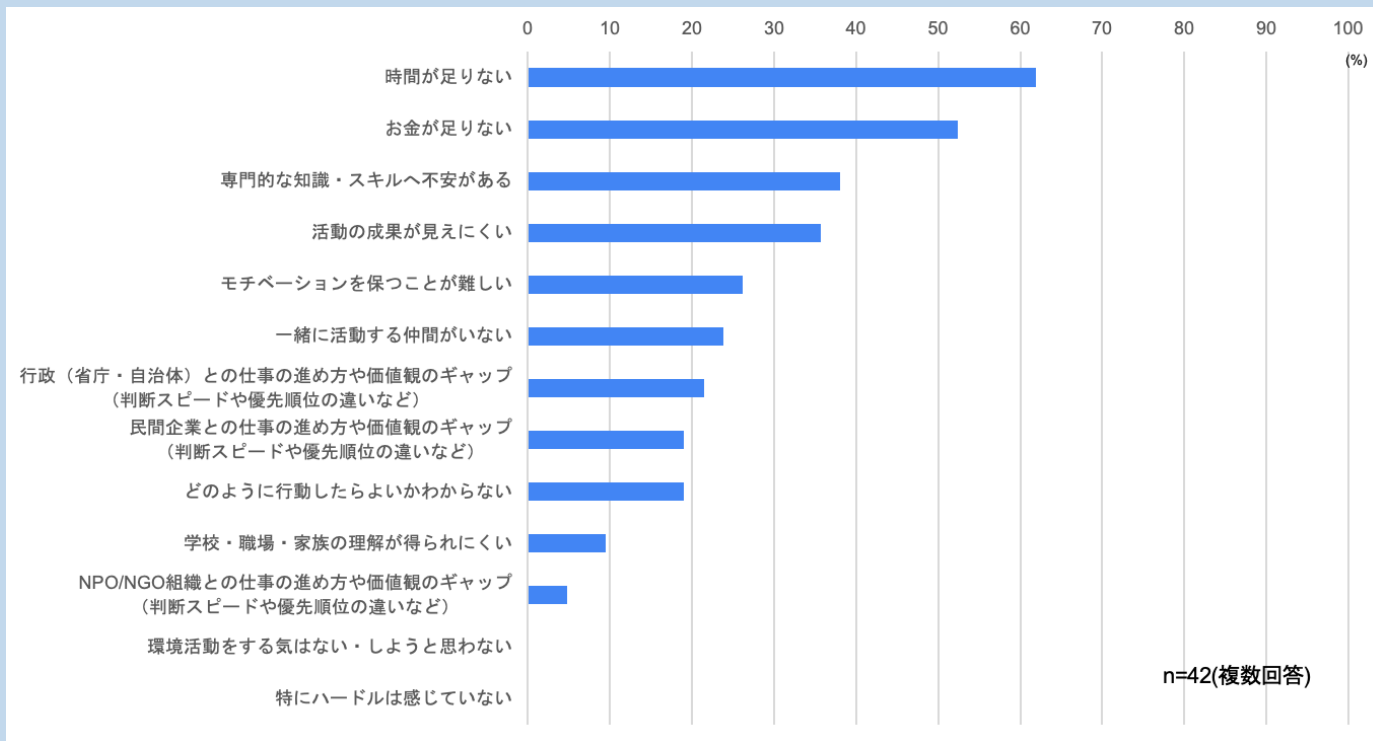
結果①：

自分で環境活動をするのに必要だと思う項目

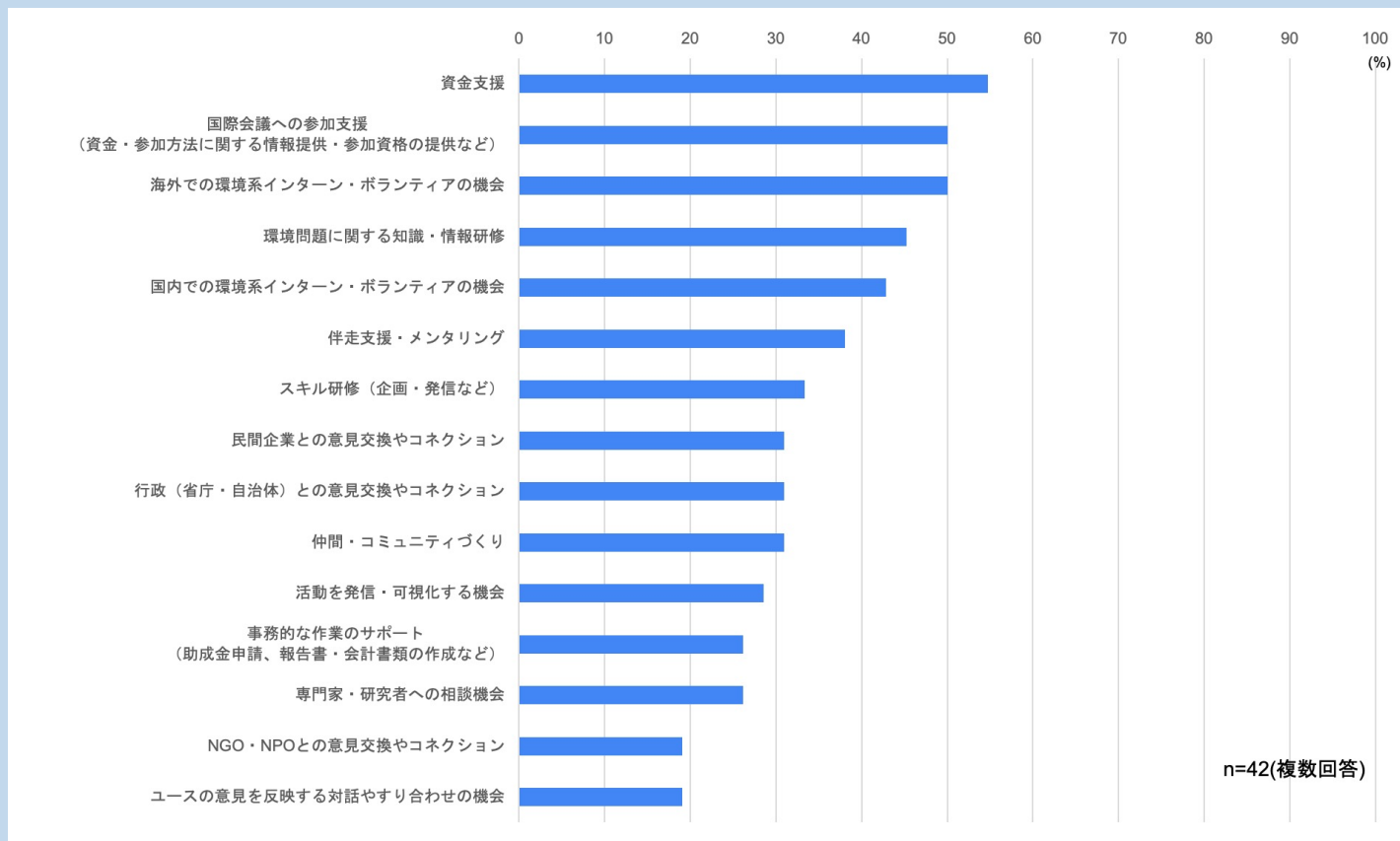


結果②：

環境活動を行う上で特にハードルだと感じている項目



結果③：今後、環境活動をするにあたって欲しい支援



:: Green Future Makers

アイデアを形にして発表し、実際にやってみる

ウェビナーで学ぶ

WSで自分のやりたいことを考える

国際会議で発表&ネットワーキング

FBをもとに計画を実行してみる



∴ Green Future Makers 2025 参加者の声 (Web掲載コメントを転記)

ウェビナーからワークショップ、ISAPでの登壇と、段階を踏まえてサポートをいただきながら、自分で設定した課題の解決に向けてアクションプランを実践しました。環境問題に興味はあったものの自ら行動を起こすことができていなかった私にとって、自分を成長させ、また実践の難しさや今後の課題に気づくことのできたとてもありがたい機会でした。学んだことをこれからの活動に活かしていきたいと思います。

環境問題の正しい知識を身につけたいと思ったのをきっかけにこのプログラムに参加しました。アクションプランを考える中で、自分の思いや、やりたかったことを言語化したり、またISAPではさまざまな方からフィードバックを得たりと、貴重な経験をさせていただきました。その後はショート動画のコンテストで受賞するなど、確実に一步を踏み出すことができています。これからも発信活動にますます力を入れていきたいと思っています。

アクションプラン記載のプロジェクトをずっと始めたいと思っていたもののなかなか一步を踏み出せなかった自分にとって、「環境」について体系的に学び、その後アクションプラン策定から国際会議での発表まで一貫してアレンジいただいた本プログラムはとても有り難かったです。アクションプランを発表した場でネットワークを広げることができ、そこで出会った他自治体や団体の方々と現在一緒に活動させていただいております。本プログラムがなければ考えられなかった機会であり、重ねて感謝しております。

∴ まとめ

- 「時間的なゆとり」が最も多く挙げられたハードル
→ 金銭的な支援も重要な一方で、学業や本業との両立を図れるような仕組みづくりや支援が必要
- 専門的知識やスキルの習得と実際に行動に移すための橋渡し
- 活動の成果をどのように可視化していくのか

環境活動の種類や活動実施の有無などで
ユースごとに支援のニーズが異なる可能性があるため、
調査分析を進め、ニーズに応じた支援をすることが必要である

THANKS!

お問い合わせは
下記までお願いいたします
office@naturelitjapan.com
<https://naturelitjapan.com>

CREDITS: This presentation template was created by [Slidesgo](#), and includes icons, infographics & images by [Freepik](#)

Please keep this slide for attribution